平成31(2019)年度　江戸川区立鹿本中学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

学校教育目標	・自ら進んで学び、心豊かな生徒に育てる。 ・自ら考え、自主的に行動する生徒に育てる。 ・健康なからだと、気力にあふれる生徒に育てる。	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・生徒が主体的に行動し、明るく楽しく生活できる学校・生徒が学びを楽しみ自主的に学習に取り組める学校 ・何事にも積極的に取り組む生徒・自他を認め合い共に伸びようとする生徒 ・生徒個々の長所を見い出し、それを伸長できる教師・生徒の人権を尊重し、個人を認め、伸びせる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞ ・ICTを活用した授業実践の増加　・学校生活での落ち着きが見られた　・新たな取り組みへの教員の意欲の向上 ＜課題＞ ・家庭学習の定着(eラーニングの活用)　・ボランティアマインドの育成　・補習学習の計画性　・前例踏襲の体制　・不登校生徒への対応		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	学校公開日、学校公開週間の実施	年間集計で保護者の参加70%	A	C	○参観した保護者は熱心な様子である ●保護者参加率40%	B	参観しない保護者にも課題があるが、積極に呼びかけて欲しい	PTA役員に協力を促す。
	インクルーシブ教育の実践	通常・特別支援・難聴の3学級の交流 鹿本学園との交流	校内交流　年3回 鹿本学園との交流　年5回	全校生徒の参加　100%	A	A	○行事を通して交流が進んでいる ●更なる交流の深化	A	3学級の利点を生かし、思いやりの心を育んで欲しい	計画的に日常の交流を図る
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	ICT研修　年3回 年間に全教員ICTを活用した授業の実践	年1回以上の授業での活用100%	A	B	○ICT研修3回実施・積極的な教員が増えた ●年1回以上85%・支援機関の計画的な活用	B	設備が整ったので、是非、全員にICTを活用して欲しい	未実施教員への支援・支援機関の活用
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	QUを活用した校内研修　年2回	不登校生徒　3%未満	A	C	○QU研修2回実施 ●不登校生徒6%	B	生徒の人間関係を見守り、未然防止に努めて欲しい	別室登校など個別対応の推進
	授業改善	生徒が主体的に楽しく学習できる授業	授業観察　年3回 教員相互の授業参観　年10回	教員相互の授業参観　80%	A	B	○授業観察2回 ●相互の授業参観65%	A	話し合い学習などが増えている。教員同士が学ぶことは大切なので、継続して欲しい	研究主任を中心に授業参観を進める
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	国語・数学・英語の学習コンテストの実施	合格者　80%	A	A	○数・国の実施。合格率80%以上 ●生徒への働きかけ不足	A	取組は良い。全生徒が意欲的になるよう働きかけを積極的に行う。	プレテスト後の学習指導
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実	3年間をかけた成果物の作成	成果物の完成　90%	C	C	○学年成果物は作成している ●内容が不十分	C	成果物が充実するように教員が指導する	進路学習部による計画の見直し
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	体育授業での補強運動の実施	授業時の補強運動　100%	A	A	○補強運動は100%実施 ●持久力がない	A	体力向上に努めて欲しい	持久力をつけるための補強運動を取り入れる
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	オリパラコーナーの充実	年6回以上の掲示物の切り替え 90%	C	C	○ラグビーワールド杯に関連付けた調べ学習の充実 ●掲示の切り替えが不足	C	生徒の作品を積極的に掲示して欲しい	指導内容の充実・掲示を定期的に切り替える
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	聞くこと話すことの向上 英語検定への取り組み	英語検定合格率　80%	A	B	○ALTの効果的な活用 ●英検合格率70%	B	ネイティブ英語に多く触れさせて欲しい	英検前の対策教室の実施・ALTの活用
	eライブラリ	eライブラリによる家庭学習	強化月間　年3回	生徒の活用　90%	A	D	○強化月間2回実施 ●自宅での活用が少ない	D	学校だけではなく、自宅で活用させて欲しい	教員の授業中の活用 保護者への周知徹底
	SNS鹿中ルール	生徒主体によるSNSのルール作り	SNS鹿中ルールの作成	9月までの完成周知	A	A	○生徒会が中心に作成 ●生徒への浸透が不十分	A	生徒会が自分らで考えたことに意義がある。	ルールを浸透させる工夫